

保護者会で、「高校3年生の学園祭は人生で一回だけ。大学受験は毎年やれますよ」と言いました。希望する大学への合格は重大ですが、合格したといことも人生のスタートラインを少し前に進んだに過ぎません。当然その後の人生のほうがずっと長く、将来社会で人と関わってどのように生きるのかということが、すべての人にとって誠に重要ですね。

昨年の学園祭で、3年生の数人が「びげダンス」を企画し、そのうちの一人がバイを顔に投げつけた後、とほげた演出は観衆は大いに盛り上がりましたが、彼の制服のネクタイはクリームだらけ。でも彼は思ひ出しのいすばい話でたナクタイなので、このまま洗いましたと笑顔です。

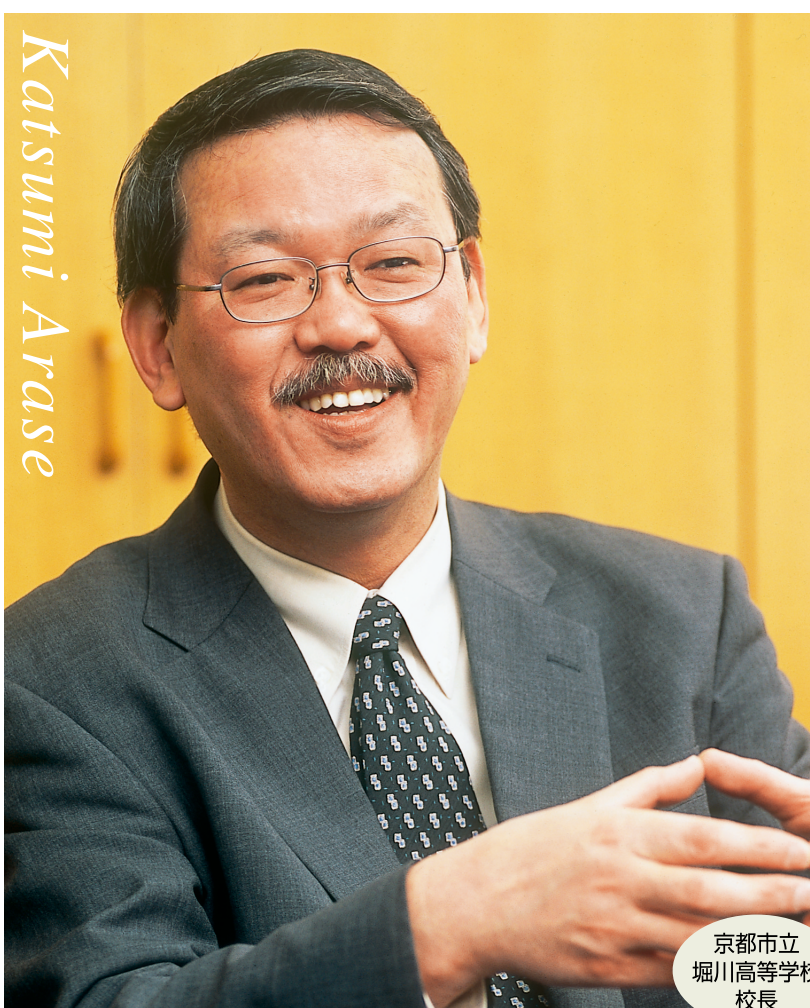
「自立できる8歳を育てたい」とを最高の教育目標に掲げています。18歳で自立することは難しいかもしれませんが、

「自立できる8歳を育てたい」とを最高の教育目標に掲げています。18歳で自立することは難しいかもしれませんが、

「自立できる8歳を育てたい」とを最高の教育目標に掲げています。18歳で自立することは難しいかもしれませんが、

「自立できる8歳を育てたい」とを最高の教育目標に掲げています。18歳で自立することは難しいかもしれませんが、

プロフィール ● 1953年、京都府出身。堀川高校校長。京都教育大学卒業後、伏見工業高校国語科教師、市教委指導主事等として市立高校改革に参画。1998年堀川高校教頭、2003年より現職。教師の意識・行動改革とチームワークにより、生徒との信頼のもと実績をあげる「堀川の奇跡」と呼ばれる高校改革を実現するなど、その学校経営手腕は高く評価されている。2005年中央教育審議会教育課程部会委員、中央教育審議会初等中等教育分科会委員に就任。日本の大学入試改革のメンバーとしても活躍が期待されている。



Katsumi Arase

京都市立堀川高等学校 校長

あしたのために

家庭教育新聞

発行：京都市教育委員会
(生涯学習部家庭地域教育支援担当)
京都市中京区寺町御池 ☎075-222-3590
http://www.edu.city.kyoto.jp/kateitiki

Vol. 174
平成19年(2007年)

- 「子どもが安らぎ育つ環境」を確立するための大人の役割とは？インターネット時代の子育て
●子どもには「早寝・早起き・朝ごはん」を ●食の「三つの楽しさ」を家庭で
- 本好きな子を育てるために学校図書館を支えるボランティアたち読書ノートをご存じですか？
- みんなで楽しくウォーキング ～世界一美しいまち、京都を歩く～「賀茂川に沿って下鴨神社から上賀茂神社へ」
●すべての学校の教育条件の整備・充実を ～平成19年度教育予算～
●父親の役割を問い直す「国際oyajiサミット」

堀川高は1学年240人(普通科・探究科合計)。今春も130人以上が国公立大に進学しました。その中で最も多い京大には現役35人、現役合計42人で全国の公立高第1位、私大も関関同立・早慶等に延べ200人以上が合格。自分のやりたいことを見つけて行きたい大学に行くという「あたりまえ」の進路指導を続けています。堀川高では、人事異動でなく、在籍する教師の潜在能力を高め、意識と行動改革によって、地域の公立小・中学校での教育をベースに学力と進路を保障するモデルとなり、その実践が他の市立高校へも広がり、例えば、今春、西京高(1学年200人)では、東大・京大等国立公立大に約130人が現役合格、銅駝美工(1学年90人)では、京芸大・東芸大等国立公立大に31人が現役合格。全国に反響を呼んでいます。荒瀬校長は、内閣教育再生会議委員も務める門川大作京都市教育長とともに中教審委員に就任。学校改革の経緯と教育への思いを綴られた著書「奇跡と呼ばれた学校」(朝日新書)はベストセラーに。今回はそんな荒瀬校長に話してもらいました。

学校は学びと楽しさのための小さな社会

堀川高校では、生徒に三つの約束をしています。

第一に「学校は学びの場」。学校は、足りないから学ぶために、不十分だから満たすためにある。学校は生徒の現状を受け入れはするが、そのままを肯定はしない。生徒たちはまだ若く、さまざまな可能性を秘めている。学校は、生徒が学ぶための多様な機会を提供します。

第二に「学校は小さな社会」。集団の中で自己を見つめ、他者を理解する場。したがってルールがあるし、マナーも必要だ。よりよい社会にするための責任を、みんなが共有している。だから、生徒は、場と状況を理解し、自覚して行動し、学校は、生徒を大きな子どもではなく「小さなおとな」として受けとめて対応します。

第三に「学校は楽しいところ」。しかし楽しいだけでは行っていないと。かき集めて、行動の成果に誇りを持ってもらえるものではない。

相互理解で個を育て見えない力を磨く

集団の中で個を育てるのが学校です。学校教育は相互理解が前提です。生徒と教師も、生徒間も、好き嫌いでなく、相手がどういう人間であることを理解することによって、今とどういう気持ちであるのかを想像することによって、交流することが大切です。学習効果も、いじめの問題も、そこから向上や解決が図られると思います。

教育には、一律的に言うべきという特別効果はありません。孔子は弟子に「応病施薬」と語りました。病に応じて薬を施す。その子のための教育です。「言葉」と言い換えてもいいでしょう。「たべもの」と言ってもいいかも知れませんが、その子のための食べ物、学校が用意するのは定食メニューですが、常にその子のための一品を心がけています。

生徒たちは、純真でまっすぐで、少々生意気です。周囲をはらはらさせるのも、若者の常です。そして失敗を経験することも。失敗や困難をいっつも経験し、そのと新鮮に困りながらも、しかし何とかが乗り越えていく。これは数学に表せる力ではありません。いわば「見えない力」。それは知識と経験によって磨かれます。

人間は取組を通して成長するもの。失敗を恐れず、あえて取り組もうとする生徒たち。そしてそれを見守る教職員。その両方が誇りです。

すべての学校の教育条件の整備・充実を～平成19年度教育予算～

平成19年度教育予算は504億5400万円。学力向上や地域ぐるみの学校づくりなど、社会総がかりでの教育改革の推進に予算を重点配分。その一端を紹介します。

- **全国初** 中学3年生での「30人学級」[5億5000万円]
きめ細かい指導の充実・進路保障に取り組みます。
(なお、平成14年度から、小学1・2年で35人学級を実施しています。)
- **全国唯一** 小・中学生全員対象の学力調査、自学自習を支援する中学校での学習確認プログラム実施 [9800万円]
- **放課後子ども教室推進事業** [8700万円]
市立小児童の運動部活動や、教室や図書室での読書・自主学習、文化活動、地域の特色を生かした取組などを実施、安心・安全な居場所を充実。
- **いじめ相談24時間ホットライン・不登校生徒の中学校運営など** [4億4800万円]
- **全国初** 塔南高・教員養成専門学科「教育みらい科」開設 [1000万円]
- **すべての子どもを健やかに育む京都を目指し、「子どもと共に育む京都市民憲章」推進** [720万円]
- **学校施設耐震補強を平成15～22年度の8年計画で推進** [18億4000万円]
京都市立学校の耐震診断率は100%。耐震化率は既に全国平均54.7%を大きく上回る70.8%に達し、平成19年度末には82%達成見込み。
- **小・中学校新增改築推進** [22億3500万円]
- **市内最大** 右京中央図書館(仮称) 開設 [12億3700万円]
京都大百科事典的図書館機能と最新のIT環境を備え、平成20年春開館予定。

いよいよ下京中学校誕生! 全市のモデルとなる取組を推進します

下京区の都文・成徳・尚徳・皆山・梅逵の5つの中学校が統合、新たに「下京中学校」が開校しました。4月3日に開催された開校式では、生徒・保護者・地域の方々など約1000人が参加。柴原弘志初代校長の下、教職員が一丸となって生徒一人ひとりを徹底的に大切にすることを実践に取り組むことが力強くアピールされました。

現在、1日7時間授業(45分)やサタデークール、地域に学ぶ「京都学」など多彩な教育活動が、屋上グラウンドや体育館、明るくゆとりある教室を備えた新校舎の下でスタートしています。

5校統合という地元の皆さんの尊いご英断によって、改築に必要な施設数大幅に減少、京都市の財政負担の軽減にも貢献しつつ、ワークショップ開催や森林プロジェクトの実施などさまざまなユニークな学校づくりが地域や保護者、行政等との緊密なパートナーシップの下で実現しました。

● **全市の学校施設を計画的・着実に整備**

これまで市内で地元の方々のご英断によって、54校の小中学校が16校に統合されています。いずれも改築時期にあった校舎の多額の改築費の代わりに、統合校の施設整備に予算を効率的・効果的に活用することが可能となりました。さらに普通教室の冷房化率100%を実現(指定都市平均は6%)。また、全国平均を大きく上回る学校建物の耐震化、校内LAN・防犯用緊急連絡インターホンの全校整備等、全市の教室環境の飛躍的な整備充実が進んでいます。

5月5日は端午の節句

端午の節句は、奈良時代から続く古い行事です。端午というのは、月の「端(はじめ)」の「午(うま)」の日という意味で5月に限ったものではありませんでした。しかし「午(こ)」は「五(ご)」に通じることから5月5日を「端午の節句」と呼ぶようになったそうです。

この日のシンボルでもある鯉のぼりは、滝を飛び越え、遡る力強さを賞したもので、子どもが元気に育つようにという親の願いが込められています。また、この日に柏餅を食べる風習は、柏の葉が新芽が出るまで古い葉が落ちないことから、世代を受け継ぐ縁起物として広まったものです。

さて、もうすぐ端午の節句です。京都市役所前広場や多くの市立小学校では、4月下旬から5月5日にかけて、京人形商工業協同組合青年会の鯉のぼりが元気に泳いでいます。京人形商工業協同組合青年会の皆さんが、日本の伝統行事とその心を子どもたちに伝えようと取り組んでおられます。子どもたちの健やかな成長を願い、みなさんもご家庭で鯉のぼりを揚げたり、柏餅を食べたりして、端午の節句を祝いませんか。

編集後記

- 本屋で「奇跡と呼ばれた学校(朝日新書)」を手にとり、さっそく読んで感銘。学校が奇跡と呼ばれたのは、特別なことに取り組んだのではなく、学校としてやるべきことをやっただけと語る堀川高校の荒瀬校長の言葉の数々は、子育てのヒント満載です。親として、大人として、また地域の一員として、子どもたちのためにやるべきことに、勇気をもってぶつかっていきましょう。
- 読書が子どもたちにもたらす知的好奇心や想像力の育成には、はかりしれないものがあります。書物との出会いが人間としての感性を涵養していきます。いま、子どもたちに読書をとさまざまな取組がなされていますが、家庭でも今号の特集を参考に大いに取り組んでいきましょう。

みんなで楽しく ウォーキング

世界一美しいまち、京都を歩く

上賀茂神社

市バス「新葵橋」停留所

河合神社

乳の森

世界遺産・下鴨神社

半木の道(北大路橋)

京都府立植物園

京都府立陶板名画の庭

世界遺産・上賀茂神社

市バス「上賀茂神社前」停留所

賀茂川に沿って下鴨神社から上賀茂神社へ

京都三大祭のひとつ、5月の葵祭で知られる上賀茂神社と下鴨神社。正式には、上賀茂は賀茂別雷神神社、下鴨は賀茂御祖神社といい、どちらも平安時代より前に創建された歴史と伝統のある神社です。今回は、春うららかな賀茂川沿いを散策しながら、世界文化遺産にも登録された京都を代表する両神社を訪ねます。

京都三大祭のひとつ、5月の葵祭で知られる上賀茂神社と下鴨神社。正式には、上賀茂は賀茂別雷神神社、下鴨は賀茂御祖神社といい、どちらも平安時代より前に創建された歴史と伝統のある神社です。今回は、春うららかな賀茂川沿いを散策しながら、世界文化遺産にも登録された京都を代表する両神社を訪ねます。

下鴨本通の東側、「史跡 乳の森」の石碑の横を入ると、すぐに河合神社です。鎌倉時代の随筆「方丈記」を書いた鴨長明ゆかりの神社で、境内には長明が住んだ「方丈の庵」が復元されています。ここから下鴨神社の境内に至る一帯は、「源氏物語」や「枕草子」にも登場する乳の森。樹齢数百年を経たケヤキ・ムク・エノキなどの太い樹木が生い茂り、瀬見の小川や泉川、復元されたばかりの奈良の小川など、美しいせせらぎが木々の間を流れています。そのなかを北へ進むと下鴨神社の朱色の楼門が見え、入ってすぐ右手が加茂みたらしだんこの名の由来ともなった御手洗池。白砂が敷きつめられた境内には、東西2棟の国宝の本殿や53棟の重要文化財の社殿が並び、王朝時代さながらの景観を今に伝えています。中門前を西へ折れ、下鴨本通を渡って賀茂川へ。出雲路橋から賀茂川沿いの散策道を北へと向かいましょう。

水辺の自然を楽しみながら上賀茂へ

賀茂川(東岸)の北大路橋から北山大橋にかけて、約800mにわたって紅枝垂桜の並木が続く桜の名所が、半木の道。川の飛び石で遊んだり、水鳥を観察するの

京都府立植物園

- 電話 / 701-0141
- 入園料 / 一般 200円
- 高校生 150円
- 小学生 80円
- 休園日 / 年末年始

京都府立陶板名画の庭

- 電話 / 724-2188
- 入園料 / 一般 100円
- 小学生 50円
- 休園日 / 年末年始

子育てサポーター(金閣小学校) 左から、市川サリータさん、岸中仁美さん、加後久見子さん、薄田知子さん

父親の役割を問い直す「国際oyajiサミット」

2月3日、世界の子育てから日本の父親の子育て参加のあり方を考える「国際oyajiサミット」が開催されました。

「京災そでふれ」が華やかでエネルギーに満ちたオープニングを飾り、記念講演は、アメリカ出身で帝塚山学院大学院教授のジェフ・バグランド氏による「日米おやじの子育て事情」。バグランド氏自身の子育て体験や、ゲームを交えた巧みな話に、会場全員が引き込まれました。

サブテーマを「花咲け、おやじの子育て事情」と銘打ったパネルディスカッションでは、主に京都在住のネパール・台湾・スウェーデン・フランス・マリ出身の父親と日本の父親が、会場も巻き込んで日本や自国の子育てについて話し合い、「母親が父親の悪口を言うなんてありえない」「夫婦が協力して子育てするのは当然」「妻に「今日もきれいだね」と声をかければ、子育てにいい影響があると思う」等々の意見が交わされ、参加者は、パネリストの意見にうなずいたり、拍手をしたりして、興味深く聞き入っていました。